

小 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究構想図	4
V	研究の内容	5
VI	研究の成果	15
VII	研究の課題	16

研究主題 新学習指導要領に対応した授業の在り方について ～生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる題材構成の工夫～

I 研究主題設定の理由

現在、少子高齢化、家庭の教育力の低下、食生活の乱れ、消費者問題や環境問題の深刻化など、児童を取り巻く環境には多くの課題が見られ、教育においてもその対応が求められている。

また、改正教育基本法には、「家庭教育」の条文が新設され、改正学校教育法第21条第4項には、「家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと」と示され、「家族と家庭の役割」が追記された。

小学校家庭科において、今回の改訂では、教科の目標に新たに「家庭生活を大切にする心情をはぐくむ」ことが明記された。このことは、家庭生活への関心を高めるとともに、衣食住などの生活の営みを大切にしようとする意欲や態度を育むことを重視したものである。これらの意欲や態度は、家庭の仕事や生活時間の学習、衣食住などの実践的・体験的な学習活動を通して、身に付くものであり、家庭科の指導を充実させることによって育まれる心情である。そしてこのようにして育まれた心情こそが生涯にわたる家庭生活を支える基盤となるものといえる。

そこで、児童が自己の生活の状況を踏まえ、家族や家庭生活の中から発見した課題について実践的・体験的な学習活動を通して解決することや、習得した知識・技能を活用し、生活の中で活用することによってよりよく生きていこうとする力をはぐくむことが大切であると考えた。そしてそのためには、これまで以上に家族や家庭に密接に関わりながら学習し、児童が、家庭の形成者の一人であるという意識を高め、進んでよりよい生活づくりに参画していくような題材を構成し、授業実践していく必要がある。

本研究では、児童が生活の中で衣食住などを中心とした生活の営みの大切さと家庭の仕事と生活時間、家族との関わり方について考え、家族や家庭生活の中から発見した課題について解決することができるようにし、家庭科の学習を自分の生活に生かし、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる題材構成の工夫について深めることとした。

II 研究の視点

新学習指導要領では、家族の一員として成長する自分を肯定的に捉え、家庭生活と家族の大切さに気付くことを重視し、内容A(1)「自分の成長と家族」の項目を設定している。この項目は、ガイダンス的な内容であるとともに、内容A「家庭生活と家族」から内容D「身近な消費生活と環境」の内容項目と関連させて学習することにより、自分の成長が家庭科の学習全体を貫く視点となっている。

新学習指導要領の各内容を関連付け、新教育課程の円滑な実施とともに児童の実態に応じた新しい授業への創造につなげるためには、内容A(1)「自分の成長と家族」を中核として、2学年間を見通した指導計画を立て、発達段階を踏まえた一貫した取組が必要であると考え、以下のことを研究の具体的な視点とした。

① 内容A(1)「自分の成長と家族」を各内容と関連させて題材を構成する

家庭生活を実生活により近いものとして総合的にとらえることができるよう、内容A(1)を各内容と密接に関連させて題材を構成する。児童の家庭生活に対する意識は、衣、食、住を分けて捉えてはいないので、内容Aから内容Dの各内容項目間の関連に着目して題材を構成する必要がある。

本研究では、児童が家族の一員として生活をよりよくしようとするために「家庭で実践する」という視点を、2学年間を通した柱として貫いた。そして児童自身で考えたことを実際に家庭生活に生かして工夫していくことができる題材の構成を行った。

② ガイダンス的な内容の題材を効果的に配列する

第4学年までの家庭生活にかかわる各教科の学習を踏まえ、家庭科において2学年間の学習の見通しをもつことができるように第5学年の最初にガイダンスを設定する。ガイダンスは、児童にとって新たなに教科に対する児童の主體的な取組の契機となるようにすることが大切である。そして児童の視点に立ち、家庭科のねらいや学び方、自分の生活への生かし方などを学び取れる題材が必要である。

本研究では、第5学年の最初のガイダンスの他に自分の成長を見つめたり、振り返ったりすることを通して題材の学び方や自分の生活への生かし方に気付けるように第5学年の最初に加えて第5年の最後、第6学年の最初、そして第6学年の最後で実施する指導計画を立案し、自分の成長を自覚できる題材を配列した。

③ 児童の学習の道筋を構想する学習チェックシートを活用する

児童が学習内容の習得のみにならず、これらを活用し、家庭で実践できるように学習の見通しを立てたり、学習を振り返ったりする自己評価の活動を計画的に取り入れる。自己評価は、評価活動を踏まえて次の目標を立て、実践していくという主体的な活動の循環を促す効果がある。

本研究では、児童が題材の学習を終えた後、学習内容についての家庭での実践の有無やその実践の達成度、また、実践を通して感じたことなどを記入する「学習チェックシート」を開発し、児童の学習の道筋を構想した指導ができるようにした。

④ 言語活動を通して生活の課題を解決する指導を工夫する

体験したことや実践したことを「自分の言葉でまとめる」、「理解したことを整理して書く」、「生活に生かすことを相手に伝える」等の活動を設定し、生活の課題を解決する力を高めるようにした。家庭科では、国語科において培われた言語の基礎的・基本的な能力を基に製作や実習などを通して、生活の中の様々な体験を言葉で表し、実感をもって理解するようにしたり、観察や実習の際のレポート作成や考察・思考したことを発表したりするなどの言語活動によって教科のねらいの定着を一層確実にしていくことが求められている。

本研究では、グループやクラスでの話し合いを充実させ、児童が相手に分かるような言葉を使って説明したり、理解したことをまとめて書いたりする等の活動を意図的にを行い、自分の生活に生かしていこうとする意欲を高めた。

Ⅲ 研究の仮説

小学校家庭科の改訂の要点として、家庭・家族に関する教育の充実がある。新学習指導要領に内容A(1)「自分の成長と家族」という項目が新たに設定された。これは、家族の一員として成長する自分自身を児童が肯定的にとらえ、家庭生活と家族の大切さに気付くようにすることを重視したものである。そして、そのねらいを達成するためには、指導者の新しい授業づくりと家庭生活を総合的にとらえた家庭科教育の充実が必要である。

2学年間を見通したストーリー性のある年間指導計画を作成することは、児童にとって題材のつながりの意味が分かるものであり、学習の効果が期待される。しかし、児童の家庭生活に大きな違いがあるため、児童の実態把握を的確に行うとともに、児童が家庭科を学習していると実感できるよう、効果的な場面に内容A「家庭生活と家族」を関連させて題材を構成し、児童自身が、2学年間の学びのストーリーを描けることを重視したいと考えた。それには、第5学年最初のガイダンスは、第6学年終了までの2学年間だけでなく、中学校での学習も含めて家庭科の学習に見通しをもたせることが大切であると考え。心も身体も成長する中学校での生活の中で、発達段階に合った家族や家庭生活、地域とのかかわりができるように、小学校での内容A(1)「自分の成長と家族」における自分の成長を十分に実感させて中学校の学習につなげていく必要がある。

また、児童にとって学習をする上で重要なことは、自分のよさを認められたり、ほめられたりすることから自己を成長させる機会を得て、学習することの確かな自信の獲得であり、指導者は、これらを意図的に経験させる必要がある。そのために、題材ごとに家族の一員としてのかかわり方について振り返らせ、自己の成長を自覚して自分の家庭生活上で実践したくなるような学習活動を展開したいと考えた。それには、児童自身が、家庭生活への意識の変化を理解し、「わかった、できた」だけでなく、「考えた、学んだ」という充実感を感じたり、第5学年の姿と第6学年の最後の姿を比較したりしながら、自己の成長を把握できる自己評価活動が大切である。家庭で実践した内容やその達成度を「学習チェックシート」に題材ごとに記録し、課題解決するための努力の状況や努力による変化を自覚することが、自分の成長への気づきを促すことにつながるとともに、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることになると考えた。

内容A「家庭生活と家族」について小学校学習指導要領解説家庭編（平成20年8月）に「学期や学年の終わりなど学習の区切りの時期に、実践記録などから学習の成果を振り返ることを通して、自分の成長への気づきが段階的に深まるようにすることなどが考えられる。」とある。

そこで、研究仮説を「2学年間を通して、自分と家族のつながりや成長を確認する場面を、意図的・効果的に取り入れた題材を構成すれば、家庭生活を大切にすることができ、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることができるであろう」とした。

Ⅳ 研究構想図

研究の構想

《教育課題》

- ・自己と家庭、家庭と社会とのつながりに目を向けるとともに、生涯の見通しをもって、よりよい生活を追究できる実践力を身に付けることが必要である。
- ・少子高齢化の進展や家庭の機能が十分に果たされていない状況から、家庭の在り方や家族の人間関係について学習し、生活における自立とともに、他の人と連携し共に生きるための知識と技術の習得が必要である。

(中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程部会 家庭・技術・家庭・情報専門部会(第4期第2回)資料)

《児童の実態》

- ・都市化や核家族化、少子化、地域における地縁的なつながりの希薄化など、家庭や家族を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力が低下している。

(平成19年度 文部科学白書第2部第1章 生涯学習社会の実現)

- ・子供たちが自分のよさに気づき、自信を持つことや、他者とかかわり、自分や相手の考えを相互に伝えたり理解したりするコミュニケーション能力は人間関係を築く基盤となる力であり、国際競争の激しいこれからの社会を生きていく上で極めて大切な力である。

(平成20年5月 東京都教育ビジョン(第2次)重要施策25)

《研究主題》

**新学習指導要領に対応した
授業の在り方について
～生活をよりよくしようとする
実践的な態度を育てる題材構成の工夫～**

《身に付けさせたい力》

- ・自己評価を生かし、継続して自分と家族、家庭生活のために活動できる力
- ・日常生活に活用できる基礎的・基本的な知識及び技能

《小学校家庭の目標》

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

《内容A 目標》

自分の成長や、家庭の仕事と生活時間などの学習を通して、家庭生活への関心を高め、衣食住などを中心とした生活の営みの大切さに気付くとともに、仕事や生活時間、家族などのかかわり方についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、家庭生活をよりよくしようとする能力と実践的な態度を育てる。

《研究仮説》

2学年間を通して、自分と家族のつながりや成長した自分を確認する場面を、意図的・効果的に取り入れた題材を構成すれば、家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることができるであろう。

《研究内容》

【基礎研究】

- ・小学校学習指導要領解説家庭編と中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(家庭分野)の理解
- ・家族の在り方や家庭を取り巻く環境に関する先行研究の理解

【研究の視点】

- ①内容A(1)を各内容と関連させて題材を構成する
- ②ガイダンス的な内容の題材を効果的に配列する
- ③児童の学習の道筋を構想する学習チェックシートを活用する
- ④言語活動を通して生活の課題を解決する指導を工夫する

【授業研究】『検証授業』

- ・自己評価を生かして継続して自分と家族、生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成
- ・日常生活に活用できる基礎的・基本的な知識及び技能の定着

《期待される研究の成果》

- ・生活をよりよくしようとするための実践的な態度の育成
- ・目標と課題の明確化による自己の成長の自覚
- ・中学校技術・家庭への応用・発展ができる基礎的・基本的な知識及び技能の着実な定着

V 研究の内容

【指導事例 1】

本題材では内容C(3)と内容A(1)を関連させ、生活で活用している布を用いた製品とミシン縫いの技能の習得を結び付け、児童の関心が高まる題材に構成した。

指導の工夫として学習チェックシートを児童の学習する意欲を高めるために役立たせたり、言語活動を通して生活の課題に迫るようにしたりした。

【指導事例 1】

1 題材名 第5学年 「わくわくミシン」

主な指導内容：内容C(3)生活に役立つ物の製作

2 題材の構成の意図

児童が衣生活の学習の中で主体的に活動する姿としては、自分らしい作品を製作したり、ミシンの技能を教え合ったりすることが期待される。しかし、それらは、一人でミシンを取り扱い、直線縫いができるようになってからの活動であり、そのためには、基礎的・基本的な知識及び技能を正確に身に付けさせる必要がある。本題材では、ワークシートの活用や言語活動を通して児童が主体的にミシン縫いに関する学習をし、基礎的・基本的な知識及び技能を正確に身に付けることができるような指導の工夫をした。

また、内容A(1)の内容を意識的に指導することにより、自分の衣生活についても家族に支えられてきたことを児童に気付かせるようにした。さらに、学習チェックシートの効果的な活用により、学習の成果を実感したり、前題材と本題材を関連付けて考えたりすることができるようにした。

3 題材の目標

- 生活の中で使うものに関心をもち、ミシンを用いて楽しみながら製作しようとしている。
[関心・意欲・態度]
- 作りたいものを考え、自分なりに試したり、工夫したりしている。[創意・工夫]
- 作りたいものの形や大きさを考えながら、ミシンを使って直線縫いをすることができる。
[技能]
- 製作に必要な用具の安全な取り扱い方について理解している。[知識・理解]

4 指導計画〔全8時間〕

小題材名 〔時間〕	主な学習活動
1次 ミシンぬいにチャレンジ①～④ 〔4〕 ① 本時	ミシンの基本的な操作を学ぶ。 製作に必要な材料や用具が分かる。 布を用いた製作をすることに関心をもつ。
2次 計画を立てて作ってみよう①～④ 〔4〕	ミシン縫いを用いた作品を製作する。 自分で製作したい作品を工夫し、目的に応じた縫い方を活用できる。 自分の作品について使い方、工夫したところを発表する。

学習活動①「前題材のふりかえりをしよう」

- ・グループで前題材「ゆでてナイスクッキング」の家庭での実践について報告し合う。
- ・仲間の報告を聞いて、学習チェックシートに記入し、発表する。

ねらい

- ・前題材の振り返りをし、学習したことと家庭での実践とをつなげ、家族の一員としての自己の成長を実感する。
- ・家庭での実践の達成度を意識することで、学習意欲を高めさせる。

書いた日	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()
題材名					
どんなふうに、家庭で生かせそうか					

【学習カルテ】

題材が終わるごとに、学習した題材名と家庭で実践できそうなことを考え、記入する。

て心が
実践け

書いた日	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()
実践レベル	5	4	3	2	1
そのレベルにした理由					
先生より					

新しい題材に取り組む前に、前題材で学習したことを活用して家庭でいかしたことについて達成度で表す。

題材ごとの達成度をつなげていくことにより、自己の成長を実感したり、家庭での実践の大切さに気付いたりすることができる。

- 5 学習したことを一人で工夫して、実践した。
- 4 工夫することを家族と相談して、実践できた
- 3 学習したことを一人で実践できた。
- 2 学習したことを家族と一緒に実践できた。
- 1 家で実践できなかった。

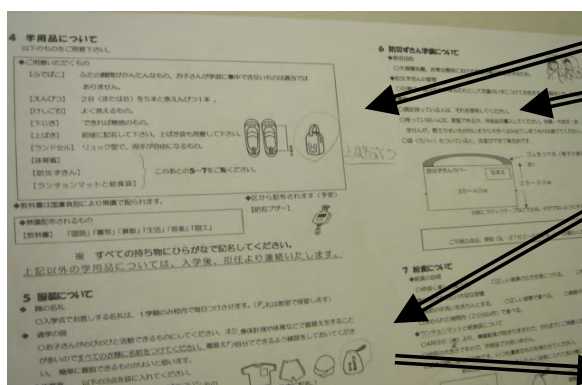
学習活動②「ミシン縫いで作れるものを考えよう」

- ・「入学のしおり」を読み、準備するものの中で、ミシン縫いで作れるものを考える。
- ・手作りのよいところを発表し合い、いろいろな布を用いた製品を知る。

ねらい

- ・ミシン縫いでいろいろなものが製作できることに気付かせる。
- ・手作りのものも含めて、日常使用している布製品は家の人が整えてくれていることに気付かせる。

①「入学のしおり」をワークシートを使用して気付かせる



上履き袋をつくってもらった。

防災ずきんカバーは、今でも使ってるよ。

体育着袋は、ひもを一度取り替えたな。

②手作りのよいところを知る

好きな模様でつくれたり、お揃いの布で他のものを作ったりできる。

手作りのものなら、ほつれても簡単に直して使えるね。

好きな大きさやデザインにできるよ。

学習活動③「ミシン縫いの特徴とよさを考えよう」

- ・布を用いた製品を実際に観察し、ワークシートに分かったことなどを記入する。
- ・ワークシートに記入した内容を基に発表し合う。

ねらい

- ・ミシン縫いで製作したものの特徴やよさに気付かせる。
- ・ミシン縫いで作品を製作することへ意欲をもたせる。
- ・布を用いた製品の構成や製作の工夫を分かりやすい言葉でワークシートに記入したり、相手に伝えたりする等、表現することを意識させる。

布でつくと温かい感じがします。

見た目もきれいだよね。

ぼくもこんな袋が作りたいなあ。

この布は丈夫そうで、上履き袋にあっていと思います。



なるほど。手さげのひもは内側に付けてあるんだ。

【指導事例1の考察】

本指導事例では、児童に学習前に「どんなふうに家庭で生かせそうか」をより具体的に考えさせ、学習チェックシートに記入させた。児童は、身に付けた技能及び知識を改めて確認し、家庭での実践を想起したことにより、何をしたらよいかという目標が明確になり、「ウオールポケットがこわれていたので、なおした」、「体育の紅白帽子がほつれたので、修理した」などを記入していた。

本指導事例は、内容C(3)と内容A(1)の関連させた題材で学習チェックシートから児童の学習の達成度を把握したが、他の学習内容においても実践が可能であると考え。その際には、以下のように学習内容ごとに内容A(1)の視点から児童の学習の達成度を把握できるよう児童に期待する学習チェックシートに記入する例を準備しておくとうい考える。

* 内容Aの視点から児童に期待する学習チェックシートに記入する例

学習内容		記入例
第5学年	内容Bに関する学習内容	「お茶を家族にごちそうしたい。」 「野菜の調理ができるようになったので家で作ってみたい。」 「休みに食事作りにチャレンジしたい。」 「我が家のみそ汁の作り方を友達に伝えたい。」 など
	内容Cに関する学習内容	「ミシンで分からないことは、友達と教え合おうと楽しく学べるんだ。」 「我が家の掃除の工夫をインタビューした。友達の話聞いてもっと工夫しよう。」 など
	内容Dに関する学習内容	「家族が喜ぶパーティーを考えよう。」 「家族に丈夫で便利な物をプレゼントしたいな。」 など
第6学年	内容Bに関する学習内容	「朝食の大切さがわかった。休みの日は家族の分も作ってあげたい。」 「生活時間を工夫して、ご飯はみんなで一緒に食べるようにする。」 「バランスのよい食事の仕方を家族にも伝えたい。」 など
	内容Cに関する学習内容	「工夫しながら作品を作るのは楽しい。家族にもプレゼントしたい。」 「夏をすずしく過ごして、我が家に快適を増やしたい。」 など
	内容Dに関する学習内容	「上手にお金を使ったり、ものを大切に使ったりしたい。」 「我が家の省エネについて家族で考えよう。」 など

5 学習活動（1／8時間）

	学 習 活 動	・ 教師の支援 *評価
導入 5分	前題材のふりかえりをしよう ○グループで「ゆでてナイスクッキング」の家庭での実践について報告し合う。	・ 学習したことや家庭での実践の様子を思い起こさせる。
展開 35分	○前題材「ゆでてナイスクッキング」の家庭での実践について学習チェックシートに記入し、発表する。 学習活動① ミシン縫いで作れるものを考えよう ○「入学のしおり」を読み、準備するものを出し合う。 ○準備するものの中で、ミシン縫いで作れるものを出し合う。 学習活動② 上履き袋 ランチョンマット 体育着袋 手さげ袋 ○手作りのよさを出し合う。(内容A) 好きな模様でつくれたり、お揃いの布で他のものを作ったりできる。 好きな大きさやデザインにできるよ。 作ったものなら、ほつれても簡単に直せるね。	・ 全体在意欲を高めるために、学習したことを生かし、家庭での実践を行った達成度に変化があった児童に発表させる。 ・ 家庭によって違いがあることに配慮し、ミシン縫いで作れるものという質問をする。 ・ 様々な家庭があることに配慮し、どんなよさがあるかという質問をする。 ・ 手作りのものも含め、日常使用している布を用いた製品は家の人が整えてくれていることに気付かせる。 ・ 自分好みの作品を作ったり、家の人にプレゼントしたりするために、ミシン縫いにチャレンジすることを呼びかける。 ・ 特徴やよさに気付かせるために、観察する視点（布端の始末・丈夫さ・縫い目等）を示す。 ミシン縫いの特徴とよさを考えよう ○布を用いた製品を観察する。 ○ワークシートに分かったことなどを記入する。 ○分かったことを発表し合う。 学習活動③
まとめ 5分	○次時は、ミシンを使って学習することを知る。	・ 分かりやすいように、教材提示装置で映す。 * ミシン縫いに関心を持ち、製作に活用しようとしている。[関心・意欲・態度] * ミシン縫いの特徴やよさを理解している。[知識・理解]

【指導事例 2】

本題材は内容A(1)、(3)と他教科で学習した内容に関連させ、家庭の一員として家族や近隣の人々との協力の大切さ学習し、生活者としての意識を高める題材に構成した。

指導の工夫として学習チェックシートを児童の学習する意欲を高めるために役立たせたり、言語活動を通して生活の課題に迫るようにしたりした。

【指導事例 2】

1 題材名 第5学年 「近隣とのつながりを広げよう」

主な指導内容：内容A(3)家族や近隣の人々とのかかわり

2 題材の構成の意図

家庭と近隣の人々の関わりを考える学習を通して、児童が、支え合いながら家庭生活が成り立っていることや近隣の人々との関わり大切さを知り、近隣の人々とともに快適に生活するために家庭生活中で何ができるかを主体的に考え、家庭生活をよりよくしようとする意欲や態度を育てることをねらいとして本題材を構成した。

児童に今までの自分の家庭生活を振り返らせ、自分が今日から家族の一員として実践できることを発見し、体験することを通して、家族との関わりや家庭生活を大切にしていこうとする態度を身に付けさせたいと考えた。

3 題材の目標

- 自分の家庭生活と近隣の人々との関わりに関心をもつ。[関心・意欲・態度]
- 家庭生活や近隣との関わりでよりよい方法を考えたり、自分なりに工夫したりすることができる。[創意・工夫]
- 地域の環境や人々との関わりを考えて自分でできることが分かる。[知識・理解]

4 指導計画 [全4時間]

小題材名 [時間]	主な学習活動
自分の生活や近隣の生活を見つめてみよう [1] 本時	自分の生活と近隣の人々や生活環境とのかかわりに気付く。
自分でできることをやってみよう [1]	自分の生活や近隣の生活環境から、自分の課題を見付け、地域の人々との生活を大切にするためにできることを考える。 自分がどのように実行するかを決め、計画を立てる。
実行したことをまとめてみよう [2]	自分が実行したことをまとめて発表する。

学習活動①「自分達の近隣の写真を見て、感じたことをグループで話し合う」

- ・自分達の近隣の様子の写真を見て、「良いと思うこと、困ると思うこと」、「どうして、そう思ったのか」をグループで話し合い、発表する。

近隣の写真の内容

- ①自転車の駐輪違反の様子
- ②リサイクルボックスの様子
- ③公園の清掃の様子
- ④ごみの出し方の様子
- ⑤歩道の清掃の様子
- ⑥公園の花壇の様子
- ⑦近隣の家の前の花の様子
- ⑧下校時の交通指導員さんの様子

当番制にしているのかなあ。

掃除している人は近所の人だね。



5 学習活動（1／4時間）

時間	学 習 活 動	・教師の支援 *評価
導入 7分	○イラストから、「良いと思うこと、困ると思うこと」を考える。	・イラストを使用して家庭、地域があること、家庭は地域に囲まれて生活を営んでいることに気付かせる。 ・家庭生活をする上で、公共の場のマナーや生活環境を大切にすることに気付かせる。
展開 ① 15分	自分達の近隣の写真を見て、感じたことを話し合おう ○近隣の様子の写真をみて、「良いと思うこと、困ると思うこと」「どうして、そう思ったのか」をグループで話し合い、発表する。(3～4人グループ) 学習活動① 	・近隣の様子を写した8箇所の写真を見せ、自分の近隣について考えやすくする。 ・写真はグループごとに準備する。 ・グループの発表の項目は統一する。 ①良いと思うこと、困ると思うこと （写真の様子を見て思い出すことなど） ②どうしてそのように思ったのかの理由 ・事例をあげて児童に示し、考えやすくする。 ①短冊を用意し、発表内容を書かせ、黒板に貼る。 ②短冊は色分けをする（①は黄色②は水色） *近隣の人々の生活の様子から、良いこと、困っていることを見付けようとしている。[関心・意欲・態度]
展開 ② 10分	「自分の生活」と「近隣の生活」のつながりを考えよう ○「自分の生活」と「近隣の生活」でどのようなかわり（つながり）があるか考える。 学習活動②	
展開 ③ 10分	自分たちの身近なところで、「良いと思うこと」、「困ると思うところ」を考えよう ○自分たちの「家庭生活の中」や「家の近く」で、「良かったこと」や「困ったこと」などを振り返って記入する。 学習活動③	・記入できない児童には、キーワードを書いたカードを提示して、支援をする。 キーワード 挨拶、自転車の駐輪の仕方、道路の清掃、ゴミ回収場所の利用の仕方、生活の騒音（オーディオの音量など） *「自分の家庭生活」と「近隣の生活環境」から「良いと思うこと」、「困ると思うこと」を見付けている。[関心・意欲・態度]
まとめ 2分	○次時は、「困ると思うこと」や気になることを改善するための計画を立てることを知る。 ○学習チェックシートに家庭で実践できそうなことを記入する。	

学習活動②「自分の生活と近隣の人々はどのようなつながりがあるかを考える」

ねらい

- ・話し合いをすることにより、仲間同士で共感し合ったり、認め合ったりして、学習に対する意欲を高める。
- ・仲間の意見から近隣の人々と自分の生活のつながりを考えていく。

- ・学習活動①の意見が深まるよう「誰がしているのかな」、「その人はどんな気持ちでしているのかな」など、教師の発問によって地域の人々の願いや気持ちに迫っていく。
- ・話し合いの中で、「自分や家族の人は近隣の人々と支え合って生活している」ことに気付く。



私の家の前のゴミ置き場のネットは、近所で順番にかけているよ。

近所でルールを守っているんだね。

道がきれいになると、通る人も気持ちがいいね。

歩道のゴミをはいているよ。

ゴミ置き場の写真は、ゴミにネットがきれいにかけてあるね。

学習活動③「自分の家庭や家庭生活の中で「良いと思うこと」「困ると思うこと」を見つめる」

ねらい

- ・自分は家庭の中でどのようなことをしてきているか、見つめる。
- ・家庭で実践することが可能なこととそうでないこと、すぐにできることとそうでないことなどに分類し、生活に生かす方法について考える。

- ・「家庭生活の中で」、「家の近くで」に視点をあて、「良いと思うこと」、「困ると思うこと」を見つめ、ワークシートに記入し、発表する。

- 児童の記入したワークシート「良いと思うこと」の内容
- 玄関だけでなく、家の前の道も掃除している。
- 音楽を聴くときには、音量に注意している。
- ペットボトルのキャップを集めてリサイクルしている。
- エコバックを使って買い物をしている。

【指導事例2】の考察

児童は、本実践の学習前の学習チェックシートに、「ゴミを分別して捨てる」、「近隣でゴミが散らかっていたら片付ける」、「あいさつをする」など、他教科や日常の生活において児童が経験を通して感じたことを記入していた。第1時間目を終えた1週間後の学習チェックシートには、児童は、「近所の人にあいさつができた」、「ゴミの分別や整理を正しく行い、ゴミ置き場に置いた」など、学習したことを振り返り、家庭での実践を加えて記入していた。さらに「母と一緒にゴミ置き場の掃除をした」、「兄と一緒に駐輪場の整理をした」など、家族とともに実践した様子についても記入していた。次の題材では、衣生活、食生活について学習したが、児童は、学習チェックシートに「くつ下のやぶれを母と一緒に縫った」、「父のシャツのボタン付けをした」、「昼食を姉と一緒に作り、家族で食べた」、「サラダをいつもがんばっている両親に作ってあげた」など、内容A(1)と関連しない題材においても引き続き、「家族と一緒に」、「家族のために」という言葉を用いて家庭での実践を記入していた。

これらは、共に生活をしている近隣の人々と協力する必要があることに気付かせたり、家庭生活の中で「困ると思うこと」等の課題を解決したりすることによって、児童が、家庭生活と近隣の人々とのつながりの大切さを実感し、家庭の一員としての自分の成長を自覚したからであると考えられる。

◇言語活動を通して生活の課題に迫るに当たって

家庭科の言語活動については、学習指導要領の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」の5で「各内容に当たっては、衣食住などの生活の中の様々な実感を伴って理解する学習活動や自分をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するように配慮するものとする」と示されている。

家庭科の学習において、言語活動の充実は、実践的・体験的な学習活動の質を高め、言葉を豊かにするとともに生活の課題を解決できる能力を育むことがねらいである。

<言語活動の役割>

- ・獲得した言葉を駆使して自分の考えをまとめたり、発表したりするなどの知的活動の基盤
- ・人と人をつなぐ意思の伝達機能
- ・感性・情緒の基盤

<言語の活用の効果>

- ・思考そのものの深まりを促す
- ・学んだ知識と技能を生活に生かす際の工夫する能力が高まる

言語活動の充実を図りながら家庭科の学習を進めていくことにより、生活への感性が高まり、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能やそれらを活用する能力が身に付き、生活をよりよくしようとする実践的な態度をはぐくむことができる。

《配慮すること》

- ・生活に関連の深い言葉を児童自身の実感が伴った（生活の中で生きた言葉となるように）明確な概念として使えるようにする。（例：炊く、沸騰、団らん、快適さなど）
- ・言葉や図表、概念などを用いて生活をよりよくしようとする方法を考えたり、体験したことを説明したり、表現したり、話し合ったりする。

* 言語活動を通して生活の課題に迫る活動の例

言葉を用いて表現する活動には、体験したことや実践したことについて「自分の考えをまとめる」、「実験等の結果を整理する」、「仲間に分かった内容を伝える」などがある。以下に具体例を示す。

内容A「家庭生活と家族」

2学年間の学習をまとめる際に家族への思いをメッセージカードに表現する

内容B「日常の食事と調理の基礎」

栄養カルター食品を絵札にし、それに対する栄養的特徴を読み札を作成する

調理実習後のまとめとして、既習内容と家庭生活で生かしたい内容を結び付けて、詩として表現する

内容C「快適な衣服と住まい」

衣服の洗濯について家族にインタビューし、衣服の手入れに必要な情報を整理し、図表にまとめ、仲間に報告し合う

ミシンの操作クイズー三者択一等、クイズ問題と解答を児童が考案する

内容D「身近な消費生活と環境」

環境にやさしい生活の仕方を既習内容と家庭生活で生かしたい内容を結び付けて、標語など

【指導事例 3】

本題材では内容D(1)と内容A(1)を関連させ、家族への心情を大切にし、家族へ贈る商品の選び方と買い方等を学習するなど、より生活に密着する題材に構成した。

指導の工夫として学習チェックシートを児童の学習する意欲を高めるために役立たせたり、言語活動を通して生活の課題に迫るようにしたりした。

【指導事例 3】

1 題材名 第5学年 「くふうしよう！かしこい生活～買物編～」

主な指導内容：内容D(1)物や金銭の使い方と買物

2 題材の構成の意図

宿泊行事において土産を選び、購入する時間を活用し、お金を計画的に使うことの大切さを理解させるとともに体験を通して目的に合った商品の選び方や買物の仕方を身に付けさせたいと考え、本題材を構成した。

また、児童にとって宿泊行事は家庭を離れ、家庭生活や家族の大切さについて気付く時間になるであろうと考え、内容A(1)と関連した題材を構成した。「家族のためにお土産を買おう」を構成し、購入した商品の家庭での使いみちについて考えさせ、さらに金銭は家族の労働で得られていることについても理解させた。

学習のまとめとして買物の活動全体を振り返りながら、今後の望ましい消費行動につなげられるよう川柳を詠み、言語活動を通して生活の課題の解決に迫る指導の工夫をした。

3 題材の目標

- 物や金銭の大切さに気付き、金銭の使い方や買物の仕方に関心をもつ。[関心・意欲・態度]
- 物や金銭の計画的な使い方と適切な買物について、自分なりに工夫している。[創意・工夫]
- 目的にあった商品の選択や買い方を考え、適切に購入できる。[技能]
- 身近な商品の選び方や買物の仕方が分かる。[知識・理解]

4 指導計画〔全4時間〕

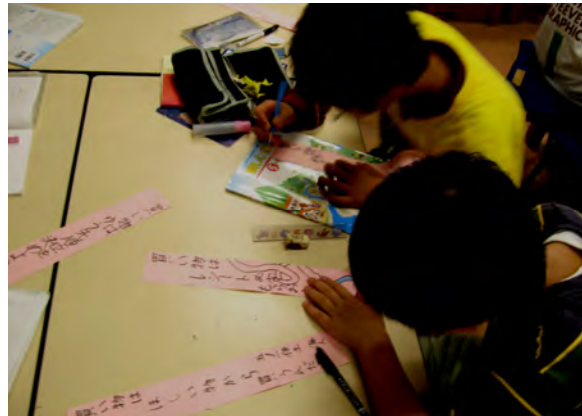
小題材名 〔時間〕	主な学習活動
お金の使い方や買物の仕方を考えよう 〔1〕	お金を計画的に使うことの大切さを理解する。 目的にあった品物の選び方や買物の仕方を知る。
計画的に買物をしよう 〔1〕	買い方の手順や計画の立て方を知る。 商品を選ぶときに気を付けることを考える。
買物の仕方を振り返ろう 〔2〕 ①川柳で買物の仕方をまとめよう ②川柳で買物の仕方を発表しよう	買物の仕方を振り返り、今後の消費生活に生かす。

【指導事例 3 の考察】

内容A(1)の内容を意識的に題材として構成していくことで、一緒に生活している家族だけでなく、お世話になった人へのお土産を購入する活動になった。学習チェックシートには、「買ったものを家族がおいしいといってくれたので、買い物へ行くようになった」、「ご飯を作る時に、買い物をしている家族のことを思い出す」、「家族で一緒に使えるものをできるものを選んで買うようになった」など、金銭の使い方についてだけでなく、自分の成長や自分を支えてくれている人への関わりを改めて見つめ直した内容が増えていた。

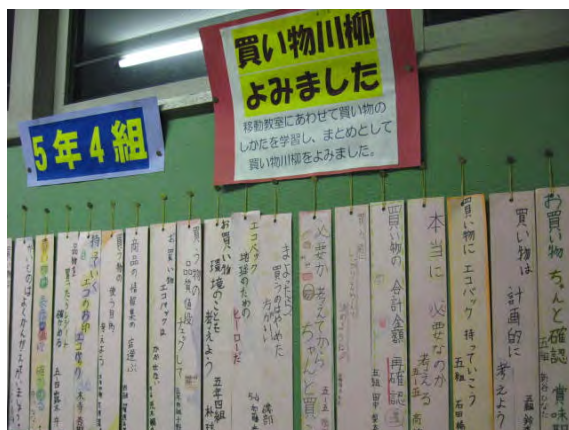
児童が、家族の一員として家族に役立てる自分を発見し、生活の仕方を振り返り、これまでの消費行動を改善するきっかけとなった。

指導計画のまとめに振り返る活動を設定した。「買物川柳」を詠み、発表し合う活動を2時間扱いで指導計画に位置付けた。1時間扱いの計画も試みたが、ほとんどの児童が、川柳を考え、短冊に記入するだけで時間が経過してしまう状態であった。発表し合う時間を設定し、互いの作品を見合い、どのような表現に共感を得たのかを話し合うことで、より学習内容への理解が深まった。本指導事例の



ように、遠足や宿泊学習など金銭を使う機会と関連をして学習を展開することは、児童にとっては実感を伴い、感じたことはもとより、学習全体を振り返ることができるため、有効であった。題材のまとめに「次年度の後輩たちに、(宿泊学習で)お土産を買うときに気を付けてもらいたいことは何か」と質問したところ、「食品を買う時は、量や賞味期限をきちんと見るようにする」、「他の人につられて、いらないものを買わないようにする」など、本指導事例の基礎的・基本的な知識及び技能として学習した内容を挙げていた。今後は、食生活や衣生活に関する学習においても用具や材料の購入などの買物の計画や実践を学習内容に取り入れ、学習内容が児童の生活に生かされるように各内容項目の関連を図り、学習内容の定着に結び付けていくことが大切であると考え。

児童は、本指導事例の直前に国語科において、川柳についての基礎的・基本的な学習をしたが、作品を作ることに対し、「難しい」、「すぐには考えつかない」と感じる児童もいた。しかし、宿泊学習で楽しい経験や実感が伴う体験を積んだ後の本指導事例では、児童なりに相応しい言葉で表現し、作品が完成する喜びを味わうことができた。また、活動の初めは、買物を実際に体験したときのおつりのもらい忘れや合計金額の計算の大切さなど、注意喚起を詠む川柳もあったが、本指導事例で学習した内容を振り返らせることによって、計画的な購入の重要性や品質表示を見ることの大切さ等に気付き、表現できるようになった。作品がより具体的に分かりやすい表現になると活動が楽しいと思える児童が増え、短冊に記入をし



ているとき、仲間の川柳に関心をもち、完成を待っている様子が感じられた。

言語活動を通して生活の課題の解決に迫る際、課題に対してより具体的な解決方法を見出すには、学習を通して習得した教科の専門的な言語を用いるような活動やそのキーワードを用意し、児童がなぜ、そのように感じたのか等を交流し合う活動を設定することも大切であると考え。

VI 研究の成果

基礎研究において、教科の目標である「生活をよりよくしようとするための実践的な態度の育成」にむけて授業実践で具現化するために、小学校学習指導要領解説家庭編を踏まえ、家族の在り方や家庭を取り巻く環境に関する先行研究の理解を深めた。

(1) 生活をよりよくしようとするための実践的な態度の育成

内容「A家庭生活と家族」の(1)のアの指導については、小学校学習指導要領解説家庭編に「A(1)のアの事項は、「A家庭生活と家族」から「D身近な消費生活と環境」の各内容と関連させて扱う事項」として位置付けられている。そこで、2学年間を見通して、学期や学年の区切りなどの適切な時期に、自分と家族のつながりや成長した自分を確認できるように、内容A(1)と他の内容を関連させた題材の構成をした。

なお、このことは、小学校学習指導要領解説家庭編に「自分の成長が、内容Aから内容Dの各内容を貫く視点として位置付けられていることを意味している。」とある。指導事例1においては、ミシン縫いの技能を身に付ける題材の導入で、家族に支えられてきた自分の衣生活について気付かせる活動を設定した。教師が、意図的に家庭生活を想起させる発問や学習活動の設定をすることにより、児童は、知識や技能を習得しながら、学習チェックシートには、「自分の上履き袋は、手作りであったことに気付いたので、もっと大切に使いたい」、「妹の人形が破れていたので、縫って直したい」など、家庭での実践する際の目標が記述されていた。児童に家庭生活を想起させることは、教科で学んだことと自己の家庭生活とを結び付けて学び、家庭での実践への意欲を高めることにつながった。

また、2学年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスの充実を目指した。

児童が、小学校・中学校5年間の家庭科の学習の流れを意識できるガイダンスを設定し、自分、家族、近隣の人々と、段階的に視野を広げて学習を深められる小学校の2年間の学習指導計画を立案した。特に、第5学年の学習については、小学校学習指導要領解説家庭編に「これからの学習をとおしてなりたいことや2年後の自分をイメージする」とある。指導事例1では、題材の導入に第5学年の児童に対して第6学年の児童が製作した作品に触れさせたり、保護者が製作し、日常使用している上履き袋等の製作順序を考えさせたりした。「ミシンは難しそうですが、いろいろな形が縫えるので楽しみです」、「厚い布でもきれいに縫えるので、早くミシンを使って作品を作りたい」など、家庭科の学習を段階的に学んでいくことによってできることが増え、自分の成長への気付きが深まり、第6学年での自分や中学校での自分を想起させることで、学んでいく大切さに気付いたり、実践する意欲を高めたりする機会となった。

(2) 目標と課題の明確化による自己の成長の自覚

自分の成長や家庭生活の課題に気付くことができる学習チェックシートの開発と活用を行った。これまでは、学習内容のつながりや学習と家庭生活を結び付けることを題材の構成の際、教師が意図していても、児童にとってはつながりが感じられず、学習内容を家庭での実践に結び付けることが難しかった。そこで、学習チェックシートを活用することにより、児童自身が学習した内容を家庭生活において実践する行動の有無やその度合いについて継続的に読み取る機会を設けた。衣食住などの生活の営みを大切にする意欲や態度がはぐくまれることを意図して学習全体を貫く視点を設定していることは、児童にとって、目標と課題を明確化することにつながり、自己の成長の自覚に結び付けることができた。

また、内容A(1)を積極的に取り入れることに併せて言語活動を通して生活の課題を解決する指導を工夫した。これまでも行ってきた問題解決的な学習を言語活動によって充実させ、学習内容をより確実に定着させることができた。指導事例3では、学習のまとめを発表する活動において、他者意識をさせ、言語を用いてカルタや川柳、標語作成の活動を取り入れた。児童は、学習内容のキーワードとなる言葉を使って活動を十分に楽しみ、生活を営むよさやその価値に触れ、生活への感性を高めていった。

(3) 中学校技術・家庭への応用・発展ができる基礎的・基本的な知識及び技能の着実な定着

新学習指導要領において、小学校と中学校の内容を内容Aから内容Dの同一の枠組みとしたことは、中学校の学習を見通して、小学校の学習に求められる基礎的・基本的な知識及び技能や生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が着実に育まれることを期待するものである。そこで、系統的、連続的な5年間の学びを意識した題材を配列した。指導事例2では、内容A(3)イについて小学校の段階から、地域の人々との関わりを通して快適な家庭生活ができることを考えていくよう、第5学年で近隣の人々との関わりを重視した題材を学習するように設定した。児童が、家庭で営まれる生活のみならず、地域との関わりによって家庭生活が成り立っていることに触れることにより、小学生段階でも、主体的に家庭生活を工夫して改善することが実践できることや中学校技術・家庭(家庭分野)「内容A(2)ア 家庭や家族の基本的な機能と家庭生活と地域とのかかわり」の学習につながるような基礎的・基本的な知識および技能の定着を図れることを明らかにすることができた。児童は、自分の家族と協力して行うことだけでなく、近隣、地域に視野を広げ、地域の視点から家庭生活を見直し、「家庭においてゴミのリサイクルに協力する」、「地域に配慮して騒音に注意する」、「環境美化に関心をもつ」、「近隣の人々への挨拶などで、関わりをもつ」ことなど、自分が今日から実践できることを発見し、体験することを通して、家族との関わりや家庭生活を大切にすることを身に付けることができた。

Ⅶ 研究の課題

(1) 内容Aの充実を図る題材開発と児童が自己の成長を自覚するための教材の開発

効果的な題材の開発は、児童の学習意欲を喚起させるために必要である。本研究では、題材構成、題材配列等に視点をあて研究を進めた結果、振り返りや見通しをもつ活動を設定することにより、児童は意欲をもつようになった。さらに児童が主体的に生活の課題を解決するような力を身に付け生活に結び付けて考えるような題材の開発が必要である。そのためには、中学校家庭分野の内容Aで期待される生徒の姿について理解を深め、授業実践できる教材の開発に努め、児童自身がより一層、自分の成長を自覚できる授業の創造に努めたい。

(2) 各校の実態に合わせた評価の工夫

基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付く題材構成がなされても、学習の評価が曖昧な状態では、児童の学習状況を的確に把握することはできない。また、教師が自身の指導の在り方について振り返ることもできない。平成23年度から、新学習指導要領が完全実施となるに当たり、各校で児童の実態に応じた指導計画を作成するとともに、評価計画を作成し、題材のねらみに対応した評価となっているか、授業を通して改善をしていく必要がある。また、授業において適切な評価方法や評価資料の吟味も必要であると考えられる。

平成２２年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 家 庭

地区	学 校 名	職名	氏名
品川区	第二延山小学校	教 諭	井 上 春 美
大田区	大森第一小学校	主幹教諭	◎横 山 みどり
世田谷区	用賀小学校	教 諭	日 景 佐和子
三鷹市	東三鷹学園 北野小学校	主任教諭	○富 永 弥 生

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター企画課 指導主事 佐 藤 明 子

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
小学校 家 庭

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 46 号

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451